

平成 24 年度事業報告

平成 24 年 4 月 1 日から

平成 25 年 3 月 31 日まで

事業の概要

財団法人松崎町振興公社では、平成 20 年 12 月の公益法人制度改革関連三法施行に伴い、一般財団法人への移行認可をめざして申請作業を進め、平成 25 年 3 月 18 日に静岡県知事から認可を受けた。これにより、同年 4 月 1 日付けで「一般財団法人松崎町振興公社」として設立登記を行った。

本年度は、特例民法法人として指定管理者制度に基づき指定された農村環境改善センター、伊豆の長八美術館、重要文化財岩科学校、明治商家中瀬邸、民芸館、道の駅花の三聖苑伊豆松崎、公共の宿伊豆まつぎ荘の管理運営に努めるとともに、町が提唱するグリーンツーリズム推進事業を受託し、都市と地方の共生、地域の活性化が図れるよう事業展開した。

1. 地域活動情報の収集及び提供

① 観光情報の収集及び提供

観光施設や宿泊、交通機関等の入込状況を調査し、関係機関に情報提供した。また、町内の観光情報等は温泉郷だよりとしてマスコミ関係者に発送した。振興公社のホームページでは施設情報、イベント等タイムリーな話題提供を行った。

② グリーンツーリズム推進事業

松崎町からグリーンツーリズム推進事業を受託し、町の自然を生かした体験型旅行の誘致を行うため、現在行われているプログラムや他の市町の協議会で事例を参考に、新たなプログラムの開発や観光資源の発掘を目標とし、また、地域情報の収集及び提供に努め、各機関との連携を図りながら事業を進めた。

教育旅行の誘致に関しては、松崎町グリーンツーリズム推進協議会を事務局として小中学校の受入を推進するため、ふれあい交流事業及び都市と地方が共に生きる地域づくりを目指し、地域経済の振興とその基盤の整備など、個性ある地域の発展に寄与することを目的とし活動した。小学校の利用は得られなかったが、三島市立南中学校、私立日大三島中学校、愛知県豊田市立足助中学校が岩地各民宿、伊豆まつぎ荘に宿泊し、松崎町で海に関する自然体験を行っ

た。誘致活動では、東京開催のセミナー、中京方面の旅行業者への営業活動、モニターツアー参加者への学校訪問等を行い、平成 25 年度の仮予約では 5 校、900 人余を受け、東日本大震災の影響を受けた昨年度からは回復することができた。また、誘致活動に対し、安全管理を徹底することの必要性から講習会の開催、リスクマネジメント研修会を受講するとともに、おもてなしの講演会を開きソフト面からも意識向上に努めた。

また、昨年度に、農林水産省関東農政局の食と地域の交流促進対策交付金交流促進計画（農山漁村交流プロジェクト）が採択、承認され、他の協議会との情報交換が活発になり、静岡県としてふじのくに体験型教育旅行誘致促進協議会が発足した。2 カ年事業の交付金では、パンフレットの作成、モニターツアーの開催、誘致活動の事業費などに充て活性化の一助となった。他には、訪日教育旅行の関係で、台湾の教育関係者の視察を受け入れた。

本年 6 月には、東海地震第 4 次被害想定が発表される予定となり、教育旅行受入に関し、安全管理の見直し、確立が求められている。

体験型旅行の取組みとして伊豆半島ジオパークが平成 24 年 9 月に日本ジオパークに認定された。ジオパーク推進としてジオサイト見学会、伊豆の化石報告会を開催した。3 月にはジオサイトを紹介する看板の設置が終了したことにより、これからのガイド活動の中で活用できると共に、周知に役立つ素材となった。

③ 料理教室の開催

本年度は 3 人の講師を招き、魚介を使った洋食メニューやカロリー計算、栄養バランスに気を配った和食、ケーキ作り等の内容で第 26 期の料理教室を開催した。

■ 料理教室開催回数 洋食 3 回・和食 3 回・菓子 2 回 合計 8 回

■ 受講者 各回 20 人募集（延べ 114 人）

実施日	内 容	参加人数	会 場
6 月 19 日	菓 子	18 人	環境改善センター
7 月 12 日	洋 食	16 人	環境改善センター
9 月 28 日	和 食	14 人	環境改善センター
10 月 23 日	和 食	13 人	環境改善センター
11 月 21 日	菓 子	13 人	環境改善センター
1 月 23 日	洋 食	13 人	環境改善センター
2 月 27 日	和 食	14 人	環境改善センター
3 月 15 日	洋 食	13 人	環境改善センター

④ 体験教室の開催

伊豆の長八美術館では、本年度も漆喰饅絵、栄光球体験教室を開催した。当美術館ならではの教室であり、地域のイベントや学校教育とも連携を図りながら事業展開した。

実施日	内 容	参加人数	会 場
年間 57 日間	漆喰饅絵教室	193 人	伊豆の長八美術館他
年間 53 日間	栄光球教室	658 人	伊豆の長八美術館他

⑤ 定住促進事業

移住・定住促進では、東京開催のセミナーの参加、第3回まつぎ田舎暮らし応援ツアーを共催し、松崎町の良さをピーアールすると共に、2年後、5年後の松崎町への移住に関する情報提供を行った。

実施日	内 容	参加人数	会 場
3月29、30日	町並み散策 桜葉塩漬け工場見学 桜並木と花畑 空家物件見学等	7組12名	松崎港から仲宿通り 小泉商店 那賀地区田んぼをつかった花畑 町内空家物件

⑥ グリーンツーリズム推進に協力

グリーンツーリズムの一環として、各施設においても下記事業を展開し推進に協力した。

- 公共の宿伊豆まつぎ荘 ほたる鑑賞会、ぶどう狩り体験
わさび漬けづくり教室、棚田農作業体験
農業振興会の朝市、お祭りひろば
餅つき・餅まき大会
- 民芸館 棚田田植祭へ出店、観光案内
- 重要文化財岩科学学校開化亭 棚田の収穫祭へ出店、観光案内

2. 緑化事業の推進

環境改善センターをはじめとする各施設の館内や花壇、フラワーポット等へ草花を植え、利用者の心を和ませるとともに心身のリフレッシュに役立てた。

- 春植え ベゴニア・メランポジューム・マリーゴールド・ポチュラカ
- 秋植え ビオラ、ノースポール、ベゴニア

3. 文化的催事の受託及び協力

① 全国漆喰饅絵コンクール作品展

期間 平成24年9月23日から10月31日まで

場所 伊豆の長八美術館特別展示室

第13回全国漆喰鏝絵コンクール作品展では、応募作品の中から入賞作品15点を伊豆の長八美術館へ展示した。

■ 期間入館者数 4,313人（常設展を含む）前年比1,041人減

② 山水八景展

期間 平成25年3月1日から3月31日まで

場所 伊豆の長八美術館特別展示室

町内松本家解体に伴い、町へ寄贈された壁画9点を展示した。

■ 期間入館者数 4,178人（常設展を含む）前年比529人減

4. 公の施設の指定管理事業

指定管理事業の概要は、次のとおりである。

① 環境改善センター

区 分	利用件数	利用者数
文化ホール	190件	12,447人
研 修 室	220件	4,975人
大会議室	219件	4,383人
和 室	235件	2,235人
調理実習室	88件	1,416人
ロ ビ ー	247件	3,481人
合 計	1,199件	28,937人

松崎町農村環境改善センターの管理に関する基本協定書第6条別紙2「松崎町農村環境改善センター管理業務仕様書」の施設管理業務を行った。

各会場の利用状況は、区長会や各種委員会といった行政関係の利用のほか、英会話教室、町民グループによる体操サークル等活発な利用がされた。文化ホールでは、ジオパーク講演会や社会福祉大会、ピアノ発表会などの利用があった。特に、和室は補聴器相談会や健康回復体操、日本舞踊の練習などの利用が多く前年に比べ利用件数、利用者数とも大幅に増加した。

②伊豆の長八美術館

区 分	入館者数
一般大人	30,684人
一般小人	836人
団体大人	2,873人
団体小人	48人
無 料	912人
合 計	35,353人

伊豆の長八美術館の管理に関する基本協定書第6条別紙2「伊豆の長八美術館管理業務仕様書」の施設管理業務を行った。

本年度は、春先から入館者数が順調に回復していたが、秋口から一転減少傾向となり、年間入館者数は35,353人となった。団体客は、ほぼ前年並みに推移したが、個人客は減少が続いており誘客対策が必要となっている。インバウンド関係では台湾訪日教育旅行促進事業団の館内案内を行い、また、外国語パンフレット（英語・中国語・韓国語）を作成し受け入れ態勢の整備を進めている。

自主事業の漆喰鏝絵体験教室は、夏休み(112人)、冬休み(31人)をはじめ年間57日開催、193人の参加があり、栄光球（エコダマ）体験教室は、夏休み(108人)、冬休み(49人)など、53日開催、658人となった。

学校関係では、松崎小学校「はつらつフェスタ」「3年生栄光球」や西豆3中学校「西豆を知ろう」県東部特別支援学校伊豆松崎分校「鏝絵・栄光球教室」等交流があり学校教育との連携を深めている。その他、県博物館協会主催の美術品取扱い研修に参加した。

③重要文化財岩科学校

区分	入館者数
一般大人	18,232人
一般小人	985人
団体大人	2,912人
団体小人	138人
無料	591人
合計	22,858人

重要文化財岩科学校の管理に関する基本協定書第6条別紙2「重要文化財岩科学校管理業務仕様書」の施設管理業務を行った。

平成24年度の入館者数は、22,858人、前年比1,445人減となり、美術館同様個人客の減少が顕著であった。

施設内では教育資料や民俗資料の展示を行っているが、町内の歴史を振り返ってみると明治から昭和初期にかけ養蚕業が盛んであったことから、まゆ玉人形の体験教室を開始した。夏休みや冬休みを中心に初年度年間で118人の実績となった。

学校関係では、松小3年生の「わんぱく岩科探検」や県東部特別支援学校伊豆松崎分校の入館があった。

庭園管理・松の管理は、町内の園芸店や樹木医に選定や消毒、定期点検を委託した。防災面では、消防設備や放水銃の点検を専門業者に依頼するとともに、文化財防火デーをはじめ年2回の職員による消防訓練を実施した。

④明治商家中瀬邸

区 分	入館者数
一般大人	18,689人
一般小人	941人
無 料	920人
合 計	20,550人

松崎町営明治商家中瀬邸の管理に関する基本協定書第6条別紙2「松崎町営明治商家中瀬邸管理業務仕様書」の施設管理業務を行った。

本年度の入館者数は、20,550人、前年比718人減となった。クラブツーリズムの入館があった関係で、美術館、重文ほどの減少にはならなかった。

喫茶売り上げが前年比126.8%と大きく伸びたが、施設正面玄関に「甘味処」の看板を設置した関係と考えられる。

離れギャラリーでは観光協会主催「第3回伊豆松崎心に残る写真コンクール作品展」を開催し、常設展としては「世界の中心で愛をさけぶ展」を開催した。また、施設周辺がTBSドラマ「とんび」の撮影舞台となったことから、併せてポスター掲示を行った。

⑤民芸館

区 分	入館者数
喫茶ギャラリー	2,621人
合 計	2,621人

松崎町営民芸館の管理に関する基本協定書第6条別紙2「松崎町営民芸館管理業務仕様書」の施設管理業務を行った。

本年度は、年度末に浄化槽の工事のため2階を休館したこともあり、年間利用者数は2,621人、前年比372人減となった。

しかしながら、売店部門においては「桜葉関連商品」や「みかんゼリー」等売れ筋商品を見極めながら販売強化に努め、また、石部棚田やエスパルスドリームプラザでの観光キャンペーン等に積極的に参加した結果、売上前年比109%という結果となった。

民芸館職員がサポートする歌声喫茶を環境センターで偶数月に実施し、年間289人の利用があった。

⑥道の駅花の三聖苑伊豆松崎

	区 分	利用・入浴者数
天城山房	食事喫茶	23,677人
かじかの湯	町外大人	11,785人

	町外小人	1,028人
	町内大人	15,952人
	町内小人	586人
	ボランティア	36人
	小計	29,387人
	合計	53,064人

松崎町営道の駅花の三聖苑伊豆松崎の管理に関する基本協定書第6条別紙2「松崎町営道の駅花の三聖苑伊豆松崎管理業務仕様書」の施設管理業務を行った。

本年度の天城山房の利用者数は23,677人、前年比1,783人増となったが、かじかの湯は、浴室壁面及び天井板工事で27日間休館したため入浴者数29,387人、907人減となった。

売店部門では道の駅記念切符の販売を開始し、年度末には施設の隣の畑で6次産業化を目指し取り組むハーブ加工品（バスハーブ、芳香蒸留水）の販売を始めた。

かじかの湯は、男性12名・女性20名の方々にボランティアとして携わっていただき、利用者が寛げる場となるよう活動していただいた。

夏休みのイベントとして恒例の「鮎のつかみどり」を開催し、延べ1,401人の参加があった。

その他、恒例の俳句の会、かご教室が開催された。

⑦公共の宿伊豆まつぎき荘

区分	区 分	付記
宿泊者	19,748人	部屋稼働率 57.4%
休憩者	6,189人	
入浴者	1,695人	人員稼働率 39.8%
計	27,632人	

伊豆まつぎき荘の管理に関する基本協定書第6条別紙2「伊豆まつぎき荘管理業務仕様書」の施設管理業務を行った。

本年度は、上半期から利用人員、収益ともども昨年より増加し、改善の兆しが見えてきたが、一転して下半期は減少が続き結果として宿泊者数は19,748人、宿泊利用率39.8%、全体の利用人員で987人増の前年比105.3%という結果となった。

特に営業面においては、昨年下半年に新規宿泊者の拡大と売上目標の実現のため策定した4つの戦略の強化に努めた。

1. ネット予約の強化

ネット予約の底上げとして、宿泊予約経営研究所と連携し、宿泊率を昨年比

130%の目標に掲げ、シェアの高いじゃらん、るるぶ、楽天トラベルの顧客を自社へ誘導する取組をメインに行った。(自社実績昨年比 131.2%、じゃらん 80.6%へ) Web サイト強化策として地域情報の配信と認知度向上のためツイッターや Facebook の掲載を強化した。るるぶ.Com や国民宿舎協会ホームページへのバナー広告掲載を行い販売に努めた。

2.公共の宿の強みを生かした営業

公共の宿の強みを生かせる営業として、ダイレクトメール発送や各市町共済担当者訪問を実施した。また、山梨県と神奈川県各市町村職員組合の広報誌やホームページへ掲載依頼した。

3.静岡県自動車学校との連携強化（将来の顧客作り）

本年度は販促強化のため、神奈川大学と青山学院大学の生協担当者の下見を受け入れ、提供部屋の増室と特典付きプラン（夕食・入浴付プラン、日帰り入浴の受け入れ、3館共通券付プラン）を実施した。日帰り入浴割引企画は、町内外に宿泊している教習生の利用促進と当荘セールスを目的としている。

4.グリーンツーリズム関連の中学生受入

当町におけるグリーンツーリズム関連の宿泊は、岩地地区が中心になっているが、日大三島中学校及び岩地地区の都合により今回初めて当荘で宿泊を受け入れた。今後松崎地区におけるメニュー作りを進め、受け入れを増やしていきたい。このほか、団体客集客のため長野や名古屋、東京、横浜への観光プロモーション参加やエージェントセールス、個人客集客のため関東地区、中京地区のマスコミへのセールス、友の会、ネット会員への販売促進を実施した。

5. 松崎町イベントへの協力

事業名	実施状況・内容		
	実施日	場所	備考
中川三聖まつり	4月1日	道の駅花の三聖苑	
伊豆松崎なまこ壁と桜のツーデーマーチ	4月1日	町内	
岩科重文まつり	4月22日	重文岩科学校及び旧岩科小学校	
夏まつり	8月16日	松崎海岸周辺	
長八まつり	9月23日	伊豆の長八美術館周辺	

会議等の開催状況

1. 第1回理事会開催

① 日 時 平成24年5月28日(月) 午前9時25分から

② 場 所 松崎町環境改善センター 研修室

③ 議 事

議案第5号 公益法人への移行申請を取り下げ一般法人への移行認可申請を基本方針とすることについて

議案第6号 財団法人松崎町振興公社評議員の選任について

承認第1号 平成23年度財団法人松崎町振興公社事業報告の承認について

承認第2号 平成23年度財団法人松崎町振興公社財務諸表の承認について

承認第3号 平成23年度財団法人松崎町振興公社会計収支計算書の承認について

以上の議案について審議し可決、承認された。

2. 第2回理事会開催

① 日 時 平成24年9月6日(木) 午前9時25分から

② 場 所 松崎町環境改善センター 研修室

③ 議 事

議案第7号 定款変更案の承認について

議案第8号 公益目的支出計画の承認について

以上の議案について審議し可決された。

3. 第3回理事会開催

① 日 時 平成25年2月28日(木) 午前9時25分から

② 場 所 松崎町環境改善センター 研修室

③ 議 事

議案第1号 平成24年度財団法人松崎町振興公社会計補正予算
(第1号) について

議案第2号 平成25年度財団法人松崎町振興公社事業計画に
ついて

議案第3号 平成25年度財団法人松崎町振興公社会計予算に
ついて

議案第4号 財団法人松崎町振興公社処務規程の一部を改正
する規程について

以上の議案について審議し可決された。

4. 第1回評議員会開催

① 日 時 平成24年5月24日(木) 午前9時25分から

② 場 所 松崎町環境改善センター 研修室

③ 審議事項

議案第4号 財団法人松崎町振興公社監事の選任について

議案第5号 公益法人への移行申請を取り下げ一般法人への
移行認可申請を基本方針とすることについて

承認第1号 平成23年度財団法人松崎町振興公社事業報告の
承認について

承認第2号 平成23年度財団法人松崎町振興公社財務諸表の
承認について

承認第3号 平成23年度財団法人松崎町振興公社会計収支計算
書の承認について

以上の議案について協議した。

5. 第2回評議員会開催

① 日 時 平成24年9月4日(火) 午前9時27分から

② 場 所 松崎町環境改善センター 研修室

③ 協議事項

議案第7号 定款変更案の承認について

議案第 8 号 公益目的支出計画の承認について

以上の議案について協議した。

6. 第 3 回評議員会開催

① 日 時 平成 25 年 2 月 26 日 (火) 午前 9 時 28 分から

② 場 所 松崎町環境改善センター 研修室

③ 協議事項

議案第 1 号 平成 24 年度財団法人松崎町振興公社会計補正予算
(第 1 号) について

議案第 2 号 平成 25 年度財団法人松崎町振興公社事業計画に
ついて

議案第 3 号 平成 25 年度財団法人松崎町振興公社会計予算に
ついて

議案第 4 号 財団法人松崎町振興公社処務規程の一部を改正
する規程について

以上の議案について協議した。